

専門研修プログラム名	ふくしま医療センターこころの杜	専門研修プログラム
基幹施設名	福島県立ふくしま医療センターこころの杜	
プログラム統括責任者	橘高 一	

専門研修プログラムの概要	本専門研修プログラムは、①幼児から高齢者まで「全年齢対応型」の精神科医育成、②医療観察ユニット、児童思春期ユニット、アウトリーチチーム等における多職種協働を通してパーソナルリカバリーを目指す精神科医の育成、③臨床と研究を両立するPhysician Scientistとしての精神科医の育成を3つの柱としている。当院の他に大学病院、総合病院、及び地域の精神科病院を連携施設としており精神医療の様々なフィールドで精神科臨床を経験できる。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	当院は2022年10月に新病院「福島県立ふくしま医療センターこころの杜」へのリニューアルが完了し、医療観察法ユニット、児童思春期ユニットなどの新機能を担う病棟を擁する公立精神科病院となり本プログラムの中核を担う。連携施設では当院で経験できない分野をカバーすべく、リエゾン精神医療（竹田総合病院・福島県立医科大学）、アディクション臨床、認知症ケア（会津西病院）の分野が経験できるようになっている。専門研修の3年間を通して症例研究や臨床研究をデザインし、学会発表、論文執筆を目指す。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	1年目：指導医とともに治療関係の構築、診断面接、初期治療を経験する。2年目：より自律的な方法で診断・治療計画の策定を行う。3年目：指導医から自立して薬物療法が行え、指導医の指導のもとCBT・力動的療法を経験する。児童・思春期精神障害、アルコール・薬物依存症の症例を学べる。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	毎週行われる症例検討会にて困難事例の治療方針に関して指導医の指導を受ける。受け持ち患者の病態に関連した論文を読み、抄読会で発表する。
	学問的姿勢	1) 自己研修とその態度、2) 精神医療の基礎となる制度、3) チーム医療、4) 情報開示に耐える医療について学習。科学的思考、研究デザイン、臨床研究の実施を目指す
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	確かな法律の知識、倫理的視点を涵養し、日々の臨床におけるインフォームドコンセント、多職種連携における協力関係構築、地域に向けての啓発活動などを経験する
	年次毎の研修計画	1年目、2年目は機関施設での研修を行い指導医の元で徐々に自立的に診断・治療（主に薬物療法）が行うことが出来ることを目指す。3年目は連携施設においてより自室した診療が可能になり、指導医の元精神療法を含めた研修を行う

施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	研修施設群と研修プログラム	基幹施設では児童思春期の入院治療、医療観察法ユニットにおける臨床経験を含めた研修が可能。連携施設ではリエゾンコンサルテーション精神医療、アディクション臨床、認知症ケアの経験を積む。
	地域医療について	基幹施設においては往診、あうちリーチチームとの共同による地域医療を経験する。支援会議や行政との連携にも時間をかけた研修を行う。
専門研修の評価	基幹施設・連携施設ともに研修基幹終了時に研修目標の達成度を評価して専攻医にフィードバックする。基幹施設においては年度ごとの評価を行う	
修了判定	研修プログラム管理委員会において専攻医の知識・技能・態度について評価し総合的に修了を判定する	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	基幹施設に専門研修プログラム管理委員会を設置し、研修プログラム全般の管理と継続的改良を行う。専攻医の評価、並びに専攻医による指導体制への評価を行い、双方向の評価を元にプログラムの改善を行う。
	専攻医の就業環境	勤務時間は週32時間を基本とし時間外勤務は月80時間を超えない。適切な休日を保障する。当直業務や時間外業務には適切な対価が支給される。
	専門研修プログラムの改善	指導医と専攻医の双方向の評価を元にプログラムの改善を行う。
	専攻医の採用と修了	日本国の医師免許を有し初期研修を修了していることを専攻医であることの要件とする。研修ガイドラインに基づき3年以上の研修を行い研修プログラム統括責任者により受験資格が認められたことを持って修了とする。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	日本専門医機構による「専門医制度新整備指針(第二版)」III-1-4記載の特定の理由のために専門研修が困難な場合は、申請により、専門研修を中断することができる。プログラム移動が必要な特別な事情が生じた時は精神科専門医制度委員会に申し出て審査を受ける。
	研修に対するサイトビジット(訪問調査)	日本精神神経学会によるサイトビジットを受け入れ、専門研修プログラム申請書の内容に合致しているか審査を受ける。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	橘高一(福島県立ふくしま医療センターこころの杜・院長)、石川大道(同・精神科長)、三浦至(福島県立医科大学・神経精神医学講座教授)、小藺江浩一(竹田総合病院・こころの医療センター長)、羽金淑江(会津西病院・院長)、治徳大介(東京医科歯科大学精神科・講師)	

Subspecialty領域との連続性

本プログラムにおいて精神科専門研修を受け、精神科領域専門医となった者はより高度の専門性を目指す。